

問1 (配点40点)

食生活の向上などにより、20世紀前半と比べて、近年の子どもの体格は向上している。その一方で、特に20世紀末から子どもの身体機能や体力の低下が指摘されている。これは、都市化の進展や、近所の空き地の減少、道路交通量の増加、子どもが巻き込まれる犯罪の増加、スマホの普及による子どもの遊び方の変化などにより、子どもが外で遊ぶ機会が減少したことも無関係ではないだろう。

また、インターネットの普及により、情報が簡単に手に入るようになったが、逆に学ぶ意欲や学習習慣の低下、粘り強く課題に取り組む力の低下が指摘されている。読書習慣の低下や、新聞発行部数の減少が指摘されており、多様な見方や情報に触れる機会が減っていることも要因と考えられる。

加えて、安価にさまざまなものが入手できる社会になり、もの作りの経験が減少したことが、子どもの創造性や、手足の巧緻性や五官の発達に悪影響を及ぼしていると指摘されている。

(393字)

問2 (配点60点)

地球温暖化、気候変動、貧困、紛争、感染症など、人類は、数多くの課題に直面している。このような問題はどれも複雑で大きな問題(例えば、地球温暖化の解決策を検討する際には科学の知識のみならず、人間の幸福とは何か、南北問題など社会科学的なアプローチも必要である)で、解決は簡単なことではないが、人類の将来のためには解決が必要である。

環境変化により、これまで「おちこぼれ」や「欠点」と見なされていたものが、課題解決の契機となるブレイクスルーをもたらすことがある。それゆえ、課題解決のためには、効率主義一辺倒に陥ることなく、多様性を重視すること、また、これまで見過ごされていた資源や技術、手法、考え方などに価値を見出したり、新たな価値を付与することが必要である。そのため、幅広い知識と多様な視点、そして柔軟な発想が必要となる。

なお、現在、「生きる力」の育成が求められているが、「生きる力」とは、幅広い知識に基づき、多様な視点から現状を分析し、より良い解決策を模索して、課題を克服する力だと思ふ。そして、このような力は現代社会の抱える課題の解決にも必要である。

また、地球規模の問題に対しては、ともすると個人の努力では解決できない無力感を抱きがちである。しかし、近年では強い台風の増加など、温暖化による気象の変化が、我々の生活に大きな影響を与えるようになってきていることなど、地球環境問題に無関心でいることは許されない状況となってきている。これまで以上に、一人一人がさまざまな課題を、自分自身の問題として捉え、正しい知識に基づいて、その解決策を探る態度の育成が重要になっている。

(679字)